



News Release

08-D-0150
2008年5月12日

NISグループ株式会社（証券コード：8571）
 長期優先債務格付据置：「BB」（ダブルBフラット）
 格付けの見通しの変更：「安定的」→「ネガティブ」
 発行登録債予備格付据置：「BB」（ダブルBフラット）

ニッシン債権回収株式会社（証券コード：8426）
 長期優先債務格付据置：「BB」（ダブルBフラット）
 格付けの見通しの変更：「安定的」→「ネガティブ」

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり、長期優先債務*等の格付けを見直し、格付けの見直しを変更しましたのでお知らせします。

*長期優先債務格付けとは、債務者（発行体）の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。このうち、期限1年以内の債務に対する債務履行能力を評価したものを短期優先債務格付けと位置づけています。個別債務の評価（債券の格付け、ローンの格付け等）では、債務の契約内容、債務間の優先劣後関係、回収可能性の程度も考慮するため、個別債務の格付けが長期優先債務格付けと異なること（上回ること、または下回ること）もあります。

発行体：NISグループ株式会社

【据置】

| （対象） | （格付） | （見通し） | |
|---------|---------|-----------------|--------|
| ・長期優先債務 | BB | ネガティブ | |
| （対象） | （発行予定額） | （発行予定期間） | （予備格付） |
| ・発行登録債 | 1,000億円 | 2007年12月3日から2年間 | BB |

発行体：ニッシン債権回収株式会社

【据置】

| （対象） | （格付） | （見通し） |
|---------|------|-------|
| ・長期優先債務 | BB | ネガティブ |

【格付事由】

(1) 本日、NISグループ株式会社（以下、当社）は、平成20年3月期通期業績予想（連結）を営業収益830億円（875億円）、営業利益△155億円（△55億円）、経常利益△175億円（△75億円）、当期純利益△452億円（△300億円）に修正することを発表した（括弧内は前回発表の予想。）。修正理由は、貸倒関連費用の増加（75億円）、「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）の早期適用（17億円）、関係会社事業損失引当金の一括計上（29億円）、投資有価証券評価減および投資有価証券売却損（19億円）、などによる。

(2) 当期損失の拡大によって、純資産は当初の想定を下回るものの、2008/3期末で約580億円前後（自己資本比率20%前後）は確保されるものと推計される。今回の棚卸資産の評価減、引当金の追加設定等によって、不動産市況や株式市場の低迷に起因する財務リスクは縮小された。また、今年2月の資本増強（200億円の普通株式による増資）と「経営改革プログラム」に基づく、選択と集中やガバナンス強化への取り組みが進められている点、消費者金融事業のウェートを低下させてきた点、利息返還にかかる損失が想定内に収まっている点は格付けのサポート要因である。

格付けは、信用すべき情報に基づいたJCRの意見の表明であり、その正確性、完全性、特定の目的への適合性等は一切保証されておりません。また、格付けは、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の売買・保有を推奨するものではありません。格付けは原則として発行者から対価を受領して行っております。

※無断コピー・転送は固くお断りします。

株式会社日本格付研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル

<情報提供電子メディア（検索コード）>

BLOOMBERG（和文：JCRA / 英文：JCR） REUTERS（EJCRA）
QUICK（和文：QR / 英文：QQ） JJI PRESS 共同通信JLS

<お問い合わせ先>

TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026 担当：情報・研修部
http://www.jcr.co.jp



News Release

(3) 他方で、金融機関の貸出姿勢の変化、今後の中期的な成長戦略の実現については外部環境によるところも大きく、引き続き制約要因がある。不動産関連事業は、これまで収益のドライバーであったが、昨年より市場に変調がみられており、チャネルや案件の出口戦略を一層多様化、変化させていく必要もあろう。今回の業績修正によって当面の資産劣化リスクは後退したが、不動産関連事業における中期的なビジネスプランと収益性には下方圧力が加わっており、コアとなる収益力に注意を払っていく必要性は増していることを踏まえて、格付けの見直しを変更した。また、人事・調達面で当社との一体性が強いニッシン債権回収についても、同様に格付けの見直しを変更した。

(4) 当社は、米国のプライベート・エクイティ投資会社 TPG と戦略的資本・事業提携を行っている総合金融サービス業者で不動産関連事業、サービサーと多角化している。2008年3月期第3四半期(連結)では、総資産 3,284 億円、営業収益 688 億円、経常利益△36 億円、純資産 612 億円(自己資本比率 17.3%)。

以上

(チーフアナリスト 本多 史裕・アナリスト 田中 純一)



News Release

【電子メディア対応版】

NISグループ株式会社は平成20年3月期通期業績予想（連結）を修正した。当期損失の拡大によって、純資産は当初の想定を下回るものの、2008/3期末で約580億円前後（自己資本比率20%前後）は確保されるものと推計される。今回の棚卸資産の評価減、引当金の追加設定等によって、不動産市況や株式市場の低迷に起因する財務リスクは縮小された。また、今年2月の資本増強（200億円の普通株式による増資）と「経営改革プログラム」に基づく、選択と集中やガバナンス強化への取り組みが進められている点、消費者金融事業のウェートを低下させてきた点、利息返還にかかる損失が想定内に収まっている点は格付けのサポート要因である。他方で、金融機関の貸出姿勢の変化、今後の中期的な成長戦略の実現については外部環境によることも大きく、引き続き制約要因がある。当面の資産劣化リスクは後退したが、コアビジネスの一つである不動産関連事業の中期的なビジネスプランと収益性には下方圧力が加わっており、注意を払っていく必要性は増していることを踏まえて、格付けの見通しを変更した。また、人事・調達面で当社との一体性が強いニッシン債権回収についても、同様に格付けの見通しを変更した。

格付けは、信用すべき情報に基づいたJCRの意見の表明であり、その正確性、完全性、特定の目的への適合性等は一切保証されておりません。また、格付けは、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の売買・保有を推奨するものではありません。格付けは原則として発行者から対価を受領して行っております。

※無断コピー・転送は固くお断りします。

株式会社 日本格付研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル

<情報提供電子メディア（検索コード）>

BLOOMBERG（和文：JCRA / 英文：JCR） REUTERS（EJCRA）

QUICK（和文：QR / 英文：QQ） JJI PRESS 共同通信JLS

<お問い合わせ先>

TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026 担当：情報・研修部

<http://www.jcr.co.jp>